



炭鉄港

アートプロジェクト 2026

会期 2026年9月13日(日)～10月4日(日)

会場 旧手宮鉄道施設(貯水槽・危険品庫)

手宮線跡

オープニングシンポジウム・ライブ

日時 2026年9月13日(日)13:30～15:30

会場 能楽堂(小樽市公会堂内)(小樽市花園5丁目2-1)

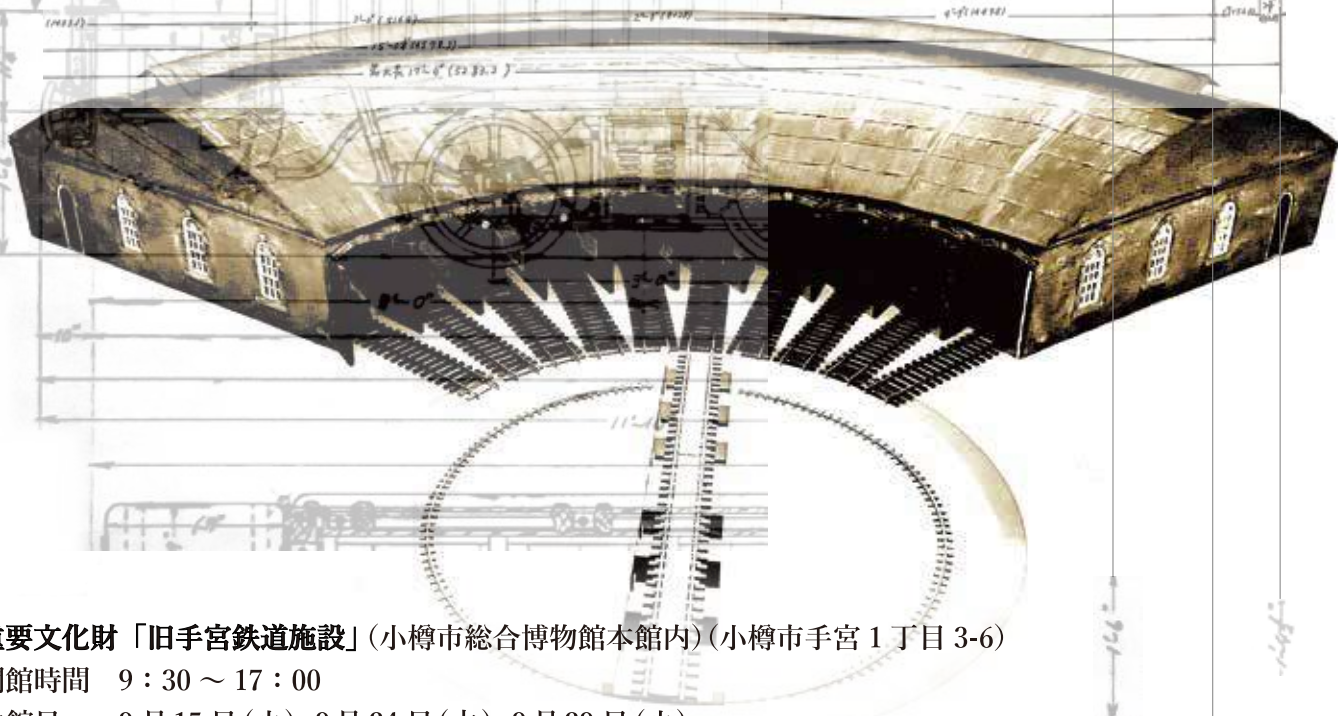
参加無料・申込不要



JAPAN HERITAGE

日本遺産

北海道の近代化を支えた日本遺産「炭鉄港」。
歴史ある産業遺産を舞台に、
アートを通して新たな魅力を発見するプロジェクトです。



重要文化財「旧手宮鉄道施設」(小樽市総合博物館本館内)(小樽市手宮1丁目3-6)

開館時間 9:30～17:00

休館日 9月15日(火)、9月24日(木)、9月29日(火)

入館料 一般:400円、高校生・市内在住70歳以上の方:200円、中学生以下:無料

手宮線跡(市立小樽文学館・市立小樽美術館横)(小樽市色内1丁目9-5付近)

観覧無料

■ 作品展示 (Installation): 高橋 喜代史 (美術家)、今村 育子 (美術家)、渡辺 元佳 (彫刻家)

■ オープニングシンポジウム 登壇者: 端 聡 (炭鉄港アートプロジェクト2026アートディレクター)、高橋 喜代史 (美術家)

高野 宏康 (小樽商科大学客員研究員 博士、地域レジリエンス株式会社代表取締役)、山戸 大知 (小樽市教育委員会学芸員)

ライブ出演者: 津村 禮次郎 (能楽師)、茂呂 剛伸 (縄文太鼓演奏者)、西崎 鼓美 (日本舞踊家)、小川 紗綾佳 (ピアニスト)

炭鉄港アートプロジェクト2026アートディレクター: 端 聡 (CAI 現代芸術研究所)

主催: 炭鉄港推進協議会 企画: CAI 現代芸術研究所 / CAI03 協力: 小樽市、小樽市教育委員会、NPO 法人炭鉄の記憶推進事業団

協賛: 小樽商工会議所、小樽市日本遺産推進協議会 助成: 公益財団法人 福武財団 お問い合わせ: 炭鉄港推進協議会事務局 TEL: 0126-20-0034 (平日 8:45～17:30)

日本遺産「炭鉄港」×アート（美術、音楽、舞）

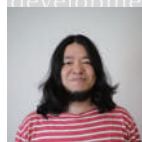
炭鉄港を、新たな視点で。

日本遺産「炭鉄港」は、空知の石炭、室蘭の鉄鋼、小樽の港湾、そしてそれらを結ぶ鉄道が一体となって北海道の近代化を支えた歴史を伝えるストーリーです。炭鉱や港湾、鉄道施設などの産業遺産は、今なお炭鉄港エリア15市町に受け継がれ、北海道の発展を物語る貴重な文化遺産となっています。炭鉄港アートプロジェクト2026では、石炭輸送の拠点として北海道の発展を支えた小樽市の旧手宮鉄道施設や手宮線跡を舞台に、アート作品の展示やライブ、シンポジウムを開催します。産業遺産とアートが響き合う空間を創出することで、日本遺産「炭鉄港」の歴史や価値を新たな視点で伝え、地域の歴史や文化を次世代へ継承するとともに、北海道のまだ見ぬ魅力や新たな地域の価値を発見する機会を創出します。

作品展示 (Installation)

日時 2026年9月13日(日)～10月4日(日)

国内外で活動する3人の現代アーティストが「炭鉄港」をコンセプトに、それぞれの会場で、その場できしか出来ない作品展示を展開。



高橋 喜代史 (美術家)
— 手宮線跡(文学館・美術館横)

公共空間でのパフォーマンスを起点に、看板、ポスター、屋台、旗、映像、文字彫装を組み合わせたインスタレーションを制作する。第33回札幌文化奨励賞 (2025)、第3回札幌駅前通アート優秀賞 (2025)、第2回KYOBASHI ART WALL優秀賞 (2022)、第3回本郷新記念札幌彫刻賞 (2020) など。



今村 育子 (美術家)
— 旧手宮鉄道施設 貯水槽 (博物館内)

日常の中にある些細な光景や、ものごとの“間”などをモチーフにしたインスタレーション作品を制作。主な展覧会に2025年「星の瞬間」北海道近代美術館 (札幌)、2022年「RIMOKONArtochek PLATFORM (ミューンヘン)」、2017年「家族の肖像」本郷新記念札幌彫刻美術館 (札幌)、「札幌国際芸術祭2014」など。



渡辺 元佳 (彫刻家)
— 旧手宮鉄道施設 危険品庫 (博物館内)

武蔵野美術大学造形学部彫刻学科卒業。国内外で活動する美術家。都市空間と人間の関係性に興味を持ち、人々が精神的に都市空間とつながる手助けとなるよう、公共空間における彫刻作品の制作・設置を行っている。

〔炭鉄港アートプロジェクト2026アートディレクター〕



端 聡

1995年ドイツ政府管轄ドイツ学術交流会DAADの助成によりドイツに滞在。ブレイメン、ヴェザーブルグ現代美術館、ウェーデル・エルンスト・バーラップ美術館、上海現代美術館、光州国立博物館ほか国内外で多数の個展、グループ展に出品。1996年「VOCA/Vision Of Contemporary Art」(東京・上野の森美術館)で奨励賞、ブタペスト国際彫刻展ビエンナーレ (ハンガリー)で美術教育文化財団賞受賞。2016年、あいちトリエンナーレ2016に出品。2017年、札幌国際芸術祭2017に出品。2004年、札幌文化奨励賞を受賞。2012年、北海道文化奨励賞を受賞。2024年、札幌芸術賞を受賞。

オープニングシンポジウム・ライブ

(Opening Symposium & Live)

日時 2026年9月13日(日) 13:30～15:30 (予定)

会場 能楽堂 (公会堂内) (小樽市花園5丁目2-1)

参加無料・申込不要

シンポジウム (13:30～14:30)：プロジェクトの趣旨や展示作品の紹介など

〔シンポジウム登壇者〕

端 聡 (炭鉄港アートプロジェクト2026アートディレクター)

高橋 喜代史 (美術家)

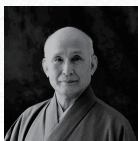
高野 宏康

(小樽商科大学客員研究員博士・地域レジリエンス株式会社代表取締役)

山戸 大知 (小樽市教育委員会学芸員)

ライブ (14:30～15:30)：国内外で活動する4名の演者による舞と音楽のパフォーマンス

〔出演者〕



津村 禮次郎
(能楽師)

シテ方親世流の能楽師。二松學舎大学文学部特任教授。親世流緑泉会代表、重要無形文化財「能楽」保持者 (総合認定)。古典能の公演のほか西洋音楽作曲家やオペラ歌手との共同制作上演や、現代演劇やコンテナーリアダンスとのコラボレーションなど新境地の開拓を行う。



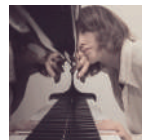
茂呂 剛伸
(縄文太鼓演奏者)

2023年北海道文化奨励賞受賞。"縄文太鼓の演奏と制作"を通じて、北海道から世界に向けて北海道の縄文芸術や縄文文化の素晴らしさを発信する活動を行っている演奏家である。



西崎 鼓美
(日本舞踊家)

西崎流日本舞踊師範。緑森会会主。「語り舞」などの創作舞台を展開する邦楽・洋楽ユニット「故新和風」代表。イサム・ノグチ設計モエレ沼公園グランドオープンセレモニー出演。モノコ演劇フェスティバル最優秀賞 (劇団10日会)、北海道札幌文化団体協議会文化賞ほか受賞。



小川 紗綾佳
(ピアニスト)

2008年、武蔵野音楽大学卒業。作曲家としてCM・番組テーマの制作や楽曲提供を行う。ソロアルバム「百鬼夜行」リリース。2023年、札幌G7閣僚大臣レセプションにて自作曲を演奏。2005年、自然体験と芸術を融合した長沼じぶんアート塾[Naja]を設立。

会場MAP・アクセス

<JR小樽駅から旧手宮鉄道施設(博物館内)>

【徒歩】約25分(博物館手宮口へ)

【バス】中央バス「小樽駅」乗車(10系統)→「総合博物館」下車博物館正面口へ徒歩3分

【バス】中央バス「小樽駅」乗車(11-15系統)→「手宮」下車博物館手宮口へ徒歩3分

【バス】中央バス「中央通」乗車(2-10系統)→「総合博物館」下車博物館正面口へ徒歩3分

【バス】中央バス「中央通」乗車(2-11-12-15-42系統)→「手宮」下車博物館手宮口へ徒歩3分

【駐車場】博物館本館正面入口前：120台(無料)

※9/13(日)は「小樽クラシックカー博覧会」開催のため駐車場が混雑します
なるべく公共交通機関でお越しください。

<JR小樽駅から手宮線跡(文学館・美術館横)>

【徒歩】約10分

【バス】中央バス「小樽駅」乗車(4-8-12-17系統)→「稲穂十字街」下車徒歩約2分

<JR小樽駅から能楽堂(公会堂内)>

【徒歩】約21分

【バス】中央バス「小樽駅」乗車(2-3-1-38-42系統)→「花園公園通」下車徒歩約10分

【バス】中央バス「小樽駅」乗車(4系統)→「市民会館」下車徒歩約5分

【バス】中央バス「小樽駅」乗車(6-16系統)→「花園公園通」下車徒歩約10分

※バスの運行時間等につきましては、北海道中央バス路線をご確認ください

